

## 牧草地 の 雑草 対策

「全く雑草の無い草地」というのはなかなか難しく、どんなに綺麗に見える草地でも、雑草はどこかに潜んでいるものです。ギンギシ、アカザ、オオバコ・・・などさまざまな雑草があるなかで、厄介者の一つとして地下茎イネ科雑草(シバムギ・メドウフオックステイル等)が挙げられます。

これらが厄介な点は、牧草にうまく紛れてしまうことです。遠目だと判別がつきにくく、発見が遅れがちです。では、これらのイネ科雑草はどのような特徴・防除方法があるのでしようか。

### 1 イネ科雑草の見分け方

ここでは、代表的な地下茎イネ科雑草として「シバムギ」と「メドウフオックステイル(以下、MFT)」を取り上げます。これらは、チモシーと間違えやすく、十勝南部地域でもよくみられる雑草です。

○シバムギ・・・葉耳があり、目立たない葉舌がある。葉鞘に微毛をもつ個体もある(図1)。

○MFT・・・葉舌があり、葉耳がない。黒い穂を出し、出穂が早い(写真1)。



写真1 黒い穂がMFT



図1 葉耳の比較 (右がチモシー 左がシバムギ)

### 2 何が「厄介」なのか

これらの雑草の何が厄介なのか。ようか。

○シバムギ

1つ目は「収量がない」という点です。チモシーよりも稈が細いため、低収になってしまいます(図2)。

2つ目は「倒れやすい」という点です。チモシーでは心配ないような草丈、風、雨でも倒れてしまいます。近くにある他の牧草なども巻き込んで倒れる場合もあります。



図2 稈の太さの違い

3つ目は「地下茎で増える」という点です。地上部が刈り取られても、地下茎は土の中に潜み、そこから増殖します。

○MFT

1つ目は、「チモシーよりも栄養価が低い」点です。

2つ目は、葉耳、葉舌の特徴がチモシーと同じため、「区別がつきにくい」という点です。

3つ目は、「出穂が早い」ことです。

今年は5月の中旬頃に穂がみられました。出穂がはやく、チモシーの収穫期よりも前に種を落としてしまうため、気がつかないうちに増えていきます。「今年は、チモシーの出穂が早い」「なんだか、チモシーの穂が黒いな」と感じる場合は要注意です。

### 3 防除について

どちらも土壌中の地下茎・種子を叩くための草地更新方法が推奨されています。

○シバムギ

シバムギは地下茎を叩くことが重要です。具体的な更新スケジュールは、一番草刈り(地下茎から再生)↓草丈40〜50cmでの耕起前処理↓は種床準備↓施肥・は種が推奨されています。

○MFT

MFTは、①土壌中の種子を叩くことと、②新たな種子を落とさないことが重要です。土に落ちた種子は3年以上経過すると発芽能力が低くなることから、飼料用とうもろこしを2年以上作付けし、その後牧草をは種することが推奨されています。

また、新たな種子を落とす前に刈取りを行うため、オーチャードグラス早生種を選定することも対策のひとつです。

○○○○○○○○○○

来春、草地をもう一度見てみませんか。よく観察することで、植生とその変化に気がつけるかもしれません。